



都 第 5 号  
平成19年5月8日

国土交通省道路局長 様

羽島市長 白 木 義 春



中期的な計画の作成にあたってのご意見の提出について

平成19年4月2日付け国道企第114号で依頼のありました標記のことについて、別紙のとおり提出します。

## **重点化を進める上で特に優先度の高い施策**

### ■骨格幹線道路の整備

羽島市第五次総合計画では、「自立した地域社会の実現」を基本理念としており、その実現のためには、広域での連携を図り、地域の自立と競争力強化のための道路整備が最も重要である。

羽島市は東海道新幹線岐阜羽島駅と名神高速道路岐阜羽島インターチェンジの2つの広域交通拠点をもつ、商業・物流などの広域的な機能集積を図り、岐阜県の玄関口としての整備をめざしている。しかしながら、この立地条件を生かすための道路ネットワークの整備状況は不十分といわざるを得ない。特に、本市においては、一般国道が存在せず、木曾川と長良川に挟まれた地形的な制約の中で、東西を結ぶ骨格道路は主要地方道大垣一宮線が唯一であり、さらには中部国際空港や名古屋港とを直結する本市から南へのアクセスは閉ざされているといってもよく、長大橋の架橋とこれらを有機的に結ぶ幹線道路ネットワーク整備が急務である。

#### ※中期計画 要望路線

- ・新濃尾大橋
- ・新濃尾大橋と大藪大橋を經由し、国道155号と国道258号を直結する幹線道路
- ・大垣江南線(長良川新架橋を含む)
- ・本市南部と東海大橋を直結する幹線道路

### ■道路ストックの適切な維持管理

軟弱地盤地帯に位置する本市においては、道路施設の定期的な更新が不可欠であり、計画的な維持補修とそのための財源確保が必要である。

また、周囲を大河川に囲まれた本市にとっては、生命線である橋梁の耐震補強は急務である。

## **効率化を徹底的に進める上で重視すべきこと**

### ■堤防道路の活用

既存ストックを有効活用する観点からも、堤防道路の機能向上は、即効性があり、費用対効果も高い。特に、現状では架橋部の交差点においてのみ渋滞が発生しており、これを解消すれば交通の流れを著しく改善できる状況にある。さらに本市を囲むように連絡している堤防道路も木曾川・長良川の背割り堤部では舗装もされていない状況であり、これを活用すれば南へのアクセスも容易になる。このため、橋梁端部の堤防道路をアンダーパス化や既存堤防道路の機能向上が喫緊の課題である。また、河川管理者に対しても、円滑な協議を進めていただくとともに、堤防強化として河川ストックを更新・機能強化する観点での積極的な事業展開を強く望む。

### ■効果的な道路ストックの更新

今後、道路の維持管理を限られた財源で効果的に行うためには、既存ストックの健全度を十分把握し、各々の道路施設が果たす役割に応じて、効率的かつ計画的に更新していくことが必要である。更新にあたっては、橋梁の長寿命化等の既存ストックの管理・補修の適正化も重要であるが、人口が増加する地域や経済活動が活性化する地域においては、更新とあわせ既存ストックの機能強化が不可欠である。

## **その他、道路施策や道路の整備・管理全般に関する意見**

### ■道路整備財源の拡充

本市においては、真に必要な道路整備を進めるため、道路特定財源で不足する部分を毎年一般財源や起債で補っているのが実情である。したがって、着実かつ計画的に道路整備を進めるためには、地方公共団体における道路特定財源の一層の充実を望む。

その中でも、近年拡充されているまちづくり交付金については、多様な施策に対して補助を受けることができる一方で、まちづくり交付金を活用して道路整備や市街地整備を行う場合は、従来の道路事業に対する補助に比べ低い補助率に留まっている。道路特定財源制度の原則に立ち帰って、まちづくり交付金対象事業の中でも地方公共団体が行う道路事業や土地区画整理事業に対しては、手厚く支援する制度へ拡充するよう強く望む。